

8/1 月福

新型コロナ

国産ワクチン初承認へ

厚労省専門部会第一三共製を了承

厚生労働省の専門部会は三十一日、第一三共（東京）が開発した新型コロナウイルスワクチンの製造販売の承認を了承した。国内

企業が開発した新型コロナワクチンでは初めてで、厚労省は近日中に承認する方針。塩野義製薬（大阪）のワクチンの了承は見送られ、次回以降の部会で改めて審議される見通しとなつた。いずれも流行初期の従来株への対応品。●関連⑩面

国内では、二〇二一年二月に米ファイザーウクチンが承認され、米モデルナや英アストラゼネカなどが

福井 危険
三國 危険
勝山 嚙戒
大野 嚙戒
越迺 危険
今庄 危険
敦賀 危険
美浜 危険
小浜 危険

外出は避け涼しい室内へ。運動は原則中止
炎天下の外出は避け、激しい運動は中止
定期的・積極的な休憩と水分・塩分補給を
運動や重労働の場合には水分・塩分補給を

試験（治験）では、ファイザーやモデルナのワクチンと同程度の有効性と安全性が確認された。今年一月に厚労省に申請していた。塩野義が開発したワクチン「コラゴーズ」は、ウイルスのタンパク質の一部を人工的に作った「組み換えたンパクワクチン」。

福井	危険	険
三國	危険	険
勝山	厳重警戒	
大野	厳重警戒	
越迺	危険	険
今庄	危険	険
敦賀	危険	険
美浜	危険	険
小浜	危険	険

福井	危険	険
三國	危険	険
勝山	厳重警戒	
大野	厳重警戒	
越迺	危険	険
今庄	危険	険
敦賀	危険	険
美浜	危険	険
小浜	危険	険

環境省熱中症予報
(1日)

国産コロナワクチン承認へ

開発投資急り 周回遅れ

国内企業による新型コロナワイルスワクチンの開発が欧米の「周回遅れ」となった背景には、自先の利益を優先してワクチン開発への投資を怠ってきた国や企業の姿勢がある。厚生労働省がコロナ流行後に総額五千億円以上の支援策を打ち出してようやく、国産初の承認が承認にこぎ着けた。ただ需要がしばみつりあり、企業がこの先採算を取れるかどうかは不透明。ワクチン生産が軌道に乗るには時間がかかりそうだ。

「最も必要な課題に十分に取り組んでこなかつた」。政府は2021年6月に閣議決定した「ワクチン開発・生産体制強化戦略」の中で、長年の不作為を認めた。
日本はかつて、感染症研究が盛んで、ワクチン大国と呼ばれた時代もあった。しかし、戦後に公衆衛生が改善すると関心が薄れ、研究力が低下。一九九〇年前後においてかぜなどの新種混合（MMR）ワクチンによる副反応が社会問題化し各地で訴訟が起きるなど、企業の開発・生産体制は弱体化していく。

高い安全性が要求される分野では海外製への依存を余儀なくされた。

▽芽が出始め

国内の脆弱な体制に批判が高まる中、厚労省は2020年度から1年で計約五千四百億円の予算を計上し、この入れを図った。研究費のほか、生産ラインの設備費や開発に成功した場合の買上げ検討など、生産体制整備費として手厚い支援

を打ち出した。
第一三共への交付額は約一百九十六億円。他の企業の開発も続いている。厚労省の担当者は、「ようやく芽が出始める」と安堵する。
▽需要少ない
動き始めるワクチン生産だが課題も多い。一つは企業の採算性だ。

国内企業の新型コロナワクチン	
会社名	ワクチンの種類
武田薬品工業	組み換えタンパクワクチン
BNT	mRNAワクチン
アストラゼネカ	不活化ワクチン

開発状況

厚労省が継続審議
厚労省が初承認へ
開発中

安全性必要 「経済合理性乏しい」

NA）ワクチンと呼ばれる種類だが、ともに初期に流行した従来株に対応しているため需要は少ない。仮に流行株に対応したワクチンが開発されたとしても、先行した海外製からシニアを奪える保証はない。開発を進める国内企業の一つで、明治グループの製薬会社KMバイオロジクス（熊本市）の永黒敏秋社長は「（政府は）国産を優先するべきだ。選ばれないリスクは会社にとって大きい」と語る。

新型コロナの流行株はたひたび変化し、現在の世界の主流はオミクロン株派生型の「XBB」。塩野義のワクチンは組み換えタンパクワクチン、第一三共はメセンジャーRNA（mRNA）を使つた新しい仕組みのワクチンを研究し、コロナ後の早期開発につながつた。北里大の中山哲夫特任教授（臨床ウイルス学）は「失敗や無駄の中に新しいものが出てくる。国は基礎研究に手厚い投資をするべきだし、コロナ後も製薬企業のワクチン開発への支援を継続するべきだ」と強調した。